

道北地域の景気の基調判断を据え置きました

皆さん、いつも、このサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。いよいよ新年度ですね。夢と希望をもって、新しいことにチャレンジされる方も多いと思います。こうした前向きな意思が景気にも少しずつ広がってくるといいですね。

さて、4月1日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を「低迷しているものの、持ち直しの動きが広がっている」として、前月までの表現を据え置きました。昨年12月からこの表現をしておりますので、5カ月連続です。判断自体は据え置きましたが、変化がないというわけではなく、文字通り「持ち直しの動きが広がって」いますので、景気は緩やかながらも広がりをもって着実に改善しています。現に、同じく4月1日に公表しました「[企業短期経済観測調査（3月調査）](#)」結果によれば、製造業、非製造業ともに業況感は改善しました。ただ、先行きについては、公共投資の減少が気になるところです。公共投資の減少が顕著になるまでに、国内民間需要の自律的回復が果たせるかどうかが今年度前半の最大のポイントになってくると思います。

本年2月の計数が中心となりますが、いくつか特徴点を申し上げます（短観のポイントは別途取りまとめましたので、[こちら](#)をご覧ください）。

1. 政策効果に支えられて、自動車販売の好調が続いています。このほか、家電販売も薄型テレビを中心に好調が続いています。さらに、貨物輸送量、空港利用客数、電力消費量など、消費関連指標の多くがポジティブな動きをしています。個人消費の裾野が広がってきているとみています。
2. 金融経済概況本文でも述べましたように、短観3月調査結果から窺われる設備投資は、21年度下期実績見込みで前年同期比3.8%増、22年度上期計画が同じく10.5%増と、足もと持ち直しの傾向がみられます。相当落ちた後での増加ですのでレベルはまだ低いのですが、心強いサインと受け止めています。
3. 製材、普通合板、紙パ、電子部品関連など製造業の生産・出荷が、前月に引き続き好調です。
4. 雇用環境はなお厳しい状況が続いていますが、新規求人数、有効求人倍率などをみる限り、着実に改善傾向にあります。
5. 住宅投資はそろそろ底を模索し始めている段階と思いますが、まだ力強さに欠けます。また、新年度入り後、公共投資の減少が見込まれますので、この影響については慎重に見守っていきたいと思います。

平成 22 年 4 月 1 日

尾家 啓之